

千住スプリンクラー株式会社 創立50周年 持続可能な消火技術で未来を守る

1963年、国産として初めて型式承認を取得した消火用スプリンクラーヘッドを開発して以来、千住スプリンクラーは半世紀以上にわたり、信頼性と品質を追求したスプリンクラーヘッドおよび関連製品を提供し続けてきました。「人命と財産を守る最良の製品を届ける」という理念のもと、技術の研鑽を重ねながら、国内市場においてトップクラスのシェアを維持しています。さらに、千住金属工業(株)との連携により、最高品質のはんだ材料を活用した、機能性の高い製品づくりを実現しています。

提供価値1 安心安全のインフラ

スプリンクラーヘッドは、商業施設やオフィスビル・病院・ホテルなど、多くの人が集まる場所に幅広く設置されています。火災時には自動的に作動し、初期消火に大きな効果を発揮することで、被害を最小限に抑えます。火災から人命と財産を守る重要な防災設備の中核を担う製品です。



1963
国産型式第1号
スプリンクラーヘッド
LP72型



1971
スプリンクラーヘッド
F型



1979
アラームバルブ
KV型



1986
スプリンクラー
ヘッド
ZN型



1996
高感度型
スプリンクラーヘッド
ZQR型



1995
フォームヘッド
SMF-01型



2000
一斉開放弁
DVW型



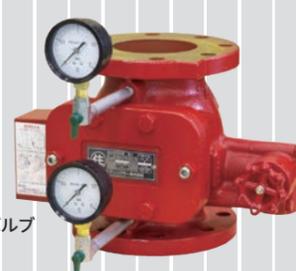
2009
コンシールドタイプ
スプリンクラーヘッド
CQR型



2010
湿式アラームバルブ
XV型



2012
スプリンクラーヘッド
KQR型



2016
水道連結型
スプリンクラーヘッド
KSR型



スプリンクラー
ヘッド
総生産数
9,000万個
突破

スプリンクラー
ヘッド
総生産数
1,000万個
突破!

スプリンクラー
ヘッド
総生産数
5,000万個
突破!

消火用閉鎖型スプリンクラーヘッドの生産数

会社のあゆみ

1963
スプリンクラーヘッド国産型式第1号
(消防研究所)型式取得

1964
千住金属工業(株)に
スプリンクラー部門発足

1974.4
千住スプリンクラー株式会社 創立
(千住金属工業(株)より製造部門独立)

1975.5
岩手県一関市にて
柴宿工場操業開始

1986.4
千住金属工業(株)より
営業部門を吸収合併
(生産・販売の一貫
会社となる)

1990.7
岩手県一関市に丸森工場を新設
主力工場として稼働開始

2008.10
北京千住消防器材有限公司
設立

2015.4
Senju Fire Protection Corp.開設
(SENJU COMTEK CORP.より独立)

2024.2
Senju Fire Protection Corp.,
天津千住消防器材有限公司子会社化

2022.10
天津千住消防器材有限公司設立
(北京から天津に移転)

提供価値2 自動化による信頼性の高いものづくり

スプリンクラーヘッドは、火災時に確実かつ迅速に作動することが不可欠であり、万一の事態でその性能が問われる製品です。一方で、平常時には漏水や誤作動が一切許されず、極めて高い品質と信頼性が求められます。こうした特性を踏まえ、当社では厳格な品質管理体制のもと、自動化された生産設備を活用して製造を行っています。その結果、安定した供給体制を維持し、お客様の信頼に確実にお応えしています。



提供価値3 グループ連携による環境配慮型製品の開発

SMICグループでは早くから泡消火薬剤のPFAS規制の動きに着目し、対応として新しい泡消火薬剤の開発に取り組んできました。そして、はんだ付け材料であるフラックス開発で培った界面活性剤に対するノウハウを持つ千住金属工業と、消火メカニズムについての知見を持つ千住スプリンクラーとの協業によって開発されたのが、高い消火性を持ちながら、環境と人にも優しい完全PFASフリーの合成界面活性剤泡消火薬剤「AwaAwa10」です。さまざまな事業を有するSMICグループの総合力が、火災対策と環境保護の両立を実現しています。



PFASフリー泡消火薬剤「AwaAwa10」での消火実験